

『METALEX 2023』レポートおよび2023年の振り返り

今年も11月22日～25日にかけて、ASEANで最大の工作機械・金属加工技術イベントである『METALEX 2023』が開催されました。今回はそちらをレポート致します。主催会社であるRX Japanの発表では昨年、今年ともに約2,500ブランドの出展との事ですので、規模自体は大きく変わりませんが来場者は2022年の86,011人から98,686人へと大きく増加しました。

参考までにもう少し遡り、過去の来場者を述べますと下記となります。

年	来場者数
2018年	99,998人
2019年	100,475人
2020年	53,112人
2021年	29,204人 (※正確には2021年開催はコロナ禍の影響により延期 2022年3月に『METALEX March』として代替実施)

上記から分かるように今年度来場者数はコロナ禍以前の数字にかなり肉薄しており、2024年は2019年に達成した10万人来場に届くのが注目される事となります。またMETALEXのベトナム版である『METALEX VIETNAM 2023』は来場者15,224人でしたので、やはり当展示会はASEAN全体で今後も大きな存在感を放ち続けていく事が予想されます。

また注目すべき技術分野としては、3Dプリント技術、人工知能(AI)、スマートマテリアル(最先端機能性材料)の3分野が展示会内でも特に強調されていました。その他、出展社数は合計766社となりましたが、国別ですと最も多い中国が213社、次いで日本が175社、タイ企業が103社、台湾企業が88社、ドイツ企業が71社、米国企業が52社、韓国企業が48社という結果となりました。近年、EVシフト、及びそのサプライチェーンにおいて必ず中国企業が話題となっておりますので今後の展示会においてもその動向や出展社数が注目されます。

実際にブース出展された日本企業からは「自動化や省人化提案、生産性向上に関するニーズは従来どおりだが、コロナ禍後で活動方針が明確化し具体的な話をしたい企業が増えた印象がある」との声がありました。

また年末となりましたので、2023年の経済関連のまとめをお伝えします。今年のタイGDP成長率は、1.9%(1～9月実績)にとどまり、年初の前年比2.7～3.7%拡大との予測から大きく下げた形となりました。要因としては、世界経済全体の回復が鈍化していることでタイの輸出が低迷したことが大きく、1～10月の輸出額は前年同期比2.7%減となっています。また観光収入においても中国経済が不振であることで、同国からの旅行者も想定ほどの増加は見られませんでした。しかし、国際機関の予想では24年は外需と観光、双方の回復が進むとの見方が有力です。

さらに、今年タイ国内では政権交代が大きな話題となりましたが、新政権の景気刺激策として以下が計画されています。

- ・ 中国とのビザ相互免除（2023年9月より試験実施されていたが、2024年3月1日より永続措置）
- ・ 日本国籍保持者の30日以内滞在の商用ビザ免除（2024年1月1日～2026年12月末まで実施）
- ・ 燃料・電気代の値下げ（2023年より段階的に実施中、2024年も継続予定）
- ・ 農家や中小企業に対する債務返済の3年間猶予（詳細時期未定）
- ・ 1万タイバーツ（約4万円）をデジタルウォレットにて国民に配布（2024年5月以降実施予定）

これらの景気刺激策の効果次第で新政権の実力が問われるとの見方もあり、その動向に注目です。

大阪産業局 タイビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク(タイ: NC BIZ CENTER (THAILAND) CO., LTD.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

タイ事務所：142 Two Pacific Place Unit 1101 11F, Sukhumvit Road,
Klongtoei, Klongtoei, Bangkok 10110 THAILAND